

糟谷孝之君追悼集会にお集まりのみなさん。  
今日は、糟谷君のマツイ（魂）に呼ばれて、沖縄・石垣島から報告をさせていただきます。

私は縁あって現在石垣島にいます。12年間自然保護活動をしています。  
私も、岡山大学で1963年から6年間、学生運動の渦中にいました。  
糟谷君とは直接の面識はありません。彼が虐殺されたとき、大学を去った後のことでした。  
今日参加したのは、自分の持ち場で責任を果たすことと、現代の若者に期待できるということを糟谷君に報告したかったからです。

話は変わりますが  
昨年、首里城正殿が全焼しました。沖縄戦では、首里城地下に日本軍司令部があったので、米軍に完全に破壊されました。あれから75年、やっと完全修復が完了したばかりでした。

首里城は沖縄の支配者であった尚氏の一族の城でした。今、沖縄の人々は首里城を失った強い「喪失感」を持っています。首里城は支配者の城ですが、沖縄の心の象徴になっていたのです。沖縄の人々の「再建願望」は非常に強く、すでに20億円余の寄付が集まっています。必ず再建するでしょう。ちなみに辺野古基金は7億円余が集まっています。

これに対して、「現在の首里城の所有者である日本国」は、再建の主導権を取ることによって、オキナワ政治にくさびを打ち込もうとしています。菅官房長官が知事と会い、国主導で再建することを宣言しています。沖縄の人々はこうした動きにも敏感に反応しています。石垣島の詩人で八重洋一郎氏は、「辺野古に見向きもしてこなかった企業が、数百万円単位の寄付をしている姿を見て、島津による侵略以来の沖縄の苦難の歴史を、学びなおす過程を抜きにした再建は、意味がないどころか、危険ですらある」と。

オキナワ苦難の歴史は、島津藩による琉球支配から始まり、明治の廃藩置県で政府は、独立国琉球を強制的に併合しました。その後、オキナワで学んだ植民地化を台湾、朝鮮、中国など東アジアで次々と実行してきました。そしてアジア太平洋戦争で、地上戦を強いられ住民の4人に一人が殺された沖縄戦があり、戦後27年間米軍支配下に置かれました。祖国復帰運動が高揚しましたが、結果は日米の2つの国家に支配される2重植民地状態に現在も置かれたままです。

こうしたオキナワの歴史を内地の人の99%は全く知りません。知らないことが、現在の沖縄差別を可能にしています。  
ということは、オキナワ自身がオキナワの運命を切り開くこと抜きに、現状から逃れる方法はないということです。オキナワの自己決定権の行使です。

では、オキナワの現状はどうでしょうか。たとえば国連で「沖縄民族は先住民族である」という決議に「反対する決議」をあげた議会在石垣をはじめ沖縄にも3市町村あります。「オキナワを植民地状態」に押し込めておくためです。これは「イデオロギーよりアイデンティティ」という翁長前知事の作った政治的枠組みを壊そうとする企でもあります。

石垣島の状況もこうした現実を踏まえて理解する必要があります。  
自衛隊の南西シフトは、10年以上前から準備されていました。アメリカは、中国封じ込めを、琉球列島・南西諸島に自衛隊ミサイル基地を並べることによって可能だとするアメリカの戦略・「オフショア作戦」を実行しています。米軍は中国と交戦せず、自衛隊に中国戦をさせるというものです。

奄美、宮古、石垣、与那国で着々とミサイル基地建設を進めています。  
石垣島では基地建設に反対する「市民連絡会」が結成され、すでに5年以上

抵抗しています。市長も市議会も自公に握られているのですから、先行きは明るくありません。地元の4公民館と市民の連携で頑張っています。若者たちが「住民投票を実現しよう」という呼びかけをして、14,000筆余＝有権者の3分の1以上、の署名を集めることに成功しました。これを市長、市議会が拒否し、現在裁判になっています。さらに住民の直接投票を義務付ける石垣市自治基本条例そのものを廃止する提案を、自民党が議会提案をしました。さすがこれには与党公明党も反対に回り、維新の1名も反対し、10対11の僅差で否決されました。2月議会では「市有地の処分」も提案されます。

住民側で、次の手について議論が起きています。次の市長選挙、議会選挙で逆転するのを待つのか、市長リコールに打って出るのかということです。辺野古の県民投票が70%以上の新基地拒否の結果であったことを考えれば、勝つ見込みはゼロではありません。

但し条件があります。勝てる市長候補を擁立ができるかどうかです。自公の得票数を上回るには5,000票差を逆転しなければなりません。それを可能にするには、相手を3,000減らし、こちらを3,000増やした時です。カギは住民投票、県民投票を担った、若者たちです。

昨年末、山本太郎氏が来島した時、ネットだけの呼びかけでしたが、普段集会に来ない若者が200人以上来ていました。若者たちは、立ち上がろうかどうしようか迷っているのではないのでしょうか。勝機が見えれば、彼らが立ち上がる可能性はあるのではないかと感じています。

戦争体験のない若者たちが「石垣島をミサイル戦争の戦場」にしないことを「自分事」として捉えられるかどうかは、わかりません。しかし若者たちが「閉塞した現在

の社会、先の見えない自分の将来」に風穴を開ける「新しい力」を求めていることは確実です。

山本氏を歓迎する若者たちの気持ちが、石垣島でも伝わってきます。低賃金、劣悪な労働環境、年金の不安、将来が見えないすべての若者、特に貧困の中に置かれている女性のこころを捉えたとき、日本の政治は変わるのではないのでしょうか。そういう意味では、沖縄も日本経済と一体ですから、沖縄の政治状況と日本の政治状況は、完全に連動しています。

香港に続く東アジアの若者たちの躍動する将来を見たいものです。

自分の持ち場で、ともに戦いましょう。若き頃の糟谷君の魂にこたえるために！